

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：33107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00432

研究課題名(和文)「無削除版日記」以降のアナイス・ニン パリンプセストとしての再読

研究課題名(英文) Rereading Anais Nin as Palimpsest: After the Publication of the Unexpurgated Diary

研究代表者

矢口 裕子 (Yaguchi, Yuko)

新潟国際情報大学・国際学部・教授

研究者番号：30339931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アナイス・ニンの自伝的テキスト群をパリンプセストとして読み重ね、21世紀のニン像を構築することを目的として行われた。研究成果として、アナイス・ニン研究会メンバーとの共訳書『アナイス・ニンとの対話』、単著としてAnais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Editionを紙媒体・電子媒体の両方で出版し、内外の読者に発信した。新しいフェミニズム誌『シモーヌ』の特集「『私』と日記：生の記録を読む」にニン論を寄稿した。また、本邦初となるニン研究書を近く出版の予定で、作家としてのニンの再評価に貢献できるものと確信する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果として、共訳書『アナイス・ニンとの対話』、雑誌『シモーヌ』への寄稿、単著Anais Nin's Paris Revisitedは、いずれも一般読者と研究者の双方にアピールしうるものである。社会的にも学術的にも再評価が進んでいると必ずしも言えないニンを広い層に紹介し、興味を喚起することには意味があると考えられる。また、Paris Revisitedを英米仏を中心に主要な公共・大学図書館に寄贈するとともに、電子出版することで世界に発信した意義は大きい。近く小鳥遊書房より出版予定の研究書は、作家としてのニンの再読・再評価をめざす、本邦初となるニンのモノグラフであり、その学術的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to construct a new perspective of Anais Nin relevant to the twenty-first century, by rereading her texts--Edited Diaries, Early Diaries, Unexpurgated Diaries, works of fiction, essays, and letters--as palimpsest. As a result of the research, I published three books. (1)Anais Nin tonotaiwa (Conversations with Anais Nin), co-translated by the members of the Anais Nin Study Group; (2)Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition, rose wind-suisseisha/rose des vents-suisseisha; and (3) Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition (ebook), ebookIt.com.(2) is basically for domestic readers while (3) is for international readers. I published an article on Nin in the special issue-- featuring the Diary--of Simone, a new feminist magazine. The publication of another book, the first monograph on Nin in this country, is also underway. It will contribute to a serious reevaluation of Anais Nin as a writer.

研究分野：アメリカ文学 ジェンダー・セクシュアリティ研究

キーワード：アメリカ文学 女性文学 ジェンダー セクシュアリティ フェミニズム 自伝 日記 アナイス・ニン

## 1. 研究開始当初の背景

アナイス・ニンは(1903-77)は1930年代に作家活動を始めたが、認知されたのは晩年、『アナイス・ニンの日記』第1巻(1966年)の出版を待ってであった。当時は第二波フェミニズムの波に乗り、亡くなるまでの約10年間は、全米の大学を講演して回るなど、カルトの人気を誇ったとされる。現在「編集版」と呼ばれる全7巻の日記(特に第1巻)は作品としての完成度は高いながら、作家の恋愛・結婚、経済的基盤をめぐる事実隠蔽ないし虚偽があるとして、当時から批判はくすぶっていたとされる。本人と関係者の死後、「事実」を明らかにした無削除版日記第1巻『ヘンリー&ジューン』(1986年)が出版されると、新しい読者を獲得する一方、古い読者に衝撃を与え、『インセスト』(1992年)の出版に至ってさらに毀誉褒貶の度を増した。

本研究は、第二波フェミニズム以降再評価の気運が高まった日記を含む自伝文学というジャンルがはらむ問題を再考する。その上で、ニンの編集版日記、初期の日記、無削除版日記、フィクション、書簡等を等価なテキストとして読み重ねることにより、21世紀現在において作家としての再読・再評価を行おうとするものである。

## 2. 研究の目的

自伝研究は1960年代以降、第二派フェミニズムの勃興とともに、個人的・私的な書き物への関心が高まり、一定の成果を上げてきた。一方、アメリカでは1990年代以降の「回想録ブーム」に対し、ナルシシズム的である、安易な売名行為等の批判が生まれたとされる。

日記を主要作品とするアナイス・ニン受容/批評の困難は、人と作品の分ちがたさにある。日記は事実の記録であるというナイーブな前提に基づき、生前出版が始まった編集版日記に対しては事実の隠蔽が批判され、「事実」が明らかにされた無削除版日記以降は、明らかになった事実への価値判断、および事実を明らかにした行為(出版)への価値判断が先行し、書かれた言葉の精査、テキスト読解、作品評価の段階にまで至っていない。本研究は、ニンの日記を自伝文学研究の枠組みに位置づけたうえで、その特異性と普遍性を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

筆者はこれまでのアナイス・ニン研究において、無削除版日記第1巻に当たる『ヘンリー&ジューン』までを論じてきた。以降無削除版日記は、2021年度末までの時点で『インセスト』、*Fire* (1995年)、*Nearer the Moon* (1996年)、*Mirage* (2013年)、*Trapeze* (2017年)の6巻が出版された。それらに対応する編集版日記1-6巻、フィクション第1作である『近親相姦の家』(1936年)、1939年にパリで出版されながら長く埋もれ、英語圏では2007年に初めて出版された『人工の冬』パリ版、ヘンリー・ミラーとの往復書簡集 *A Literate Passion* (1989年)、父との往復書簡集 *Reunited* (2020年)、UCLA図書館が所蔵する手書き日記等をパリンプセスとして読み重ね、自伝研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究、親族研究、精神分析理論等の批評理論によって分析することにより、21世紀にふさわしい新たなニン像を構築することを試みた。そのうち、コロナ禍の影響で、UCLA図書館でのアーカイヴリサーチを行うことはかなわなかった。

## 4. 研究成果

1. 矢口裕子 共訳書 アナイス・ニン研究会訳『アナイス・ニンとの対話 インタビュー集』鳥影社、2020年、総頁数254頁(担当:カーラ・ジェイ「アナイス・ニンとのふたつの対話」97-118頁)。

ミシシッピ大学出版が手がける「作家との対話」シリーズの翻訳。すべて『アナイス・ニンの日記』(1966)出版以降のインタビューなので、第二波フェミニズムの熱気が伝わってくる。日記という文学ジャンル、女性解放運動、同性愛について語る対話を担当。

2. 矢口裕子 シンポジウム「*Trapeze* (アナイス・ニン無削除版日記第6巻)」を読む」アナイス・ニン研究会、ズーム、2020年3月。

無削除版日記の最新刊について、アナイス・ニン研究会のメンバーでシンポジウムを行った。1947-55年をカバーする本書のうち、夫ヒュー・ガイラーが住むニューヨークと、後半生の第二のパートナー、ルパート・ポールと暮らすロサンゼルスを往還する生活について語った部分を担当。

3. Yaguchi, Yuko 単著 *Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition*, rose wind-suisseisha/rose des vents-suisseisha, 2021.

2019年に出版した『アナイス・ニンのパリ、ニューヨーク』のパリ編を増補改訂し、英語と

フランス語に翻訳したバイリンガル出版物である（仏語訳はフランス人研究者が担当）。

4. 矢口裕子 雑誌寄稿「お友だちはダイナマイト——『アナイス・ニンの日記』とセクシュアリティ」『シモーヌ——雑誌感覚で読めるフェミニズム入門ブック』第5号（特集「私」と日記：生の記録を読む）67-70頁、2021年、現代書館）。

新しいフェミニズム雑誌の日記特集に、ニンの無削除版日記『ヘンリー&ジューン』と『インセスト』を、現在のジェンダー・セクシュアリティをめぐる状況・思潮と照らし合わせて考察した論考を寄稿。

5. 矢口裕子 招待講演「反『ヘンリー&ジューン』小説としての「ジューナ」——『人工の冬』パリ版から」日本ヘンリー・ミラー協会、ズーム、2022年3月。

「ジューナ」は、1939年にパリで出版されながら諸事情により埋もれ、英語圏では2007年に初めて出版された『人工の冬』パリ版に収められた中編小説である。無削除版日記第一巻『ヘンリー&ジューン』と同じテーマを扱う作品だが、70年近くのちに出版される『ヘンリー&ジューン』をいわばあらかじめ脱構築しており、最良のヘンリー&ジューン物語にして反『ヘンリー&ジューン』小説といいうるものであることを論じた。

6. Yaguchi, Yuko. 単著（電子書籍）*Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition*, ebookIt.com, 2022.

3. のバイリンガル書籍をアメリカの出版社から電子書籍として刊行した。3. はもともとアメリカの出版社から出す予定だったが、諸事情により日本の出版社から上梓された。電子書籍化することで、世界に向けて発信することができた。

7. 矢口裕子 単著『アナイス・ニン——いまだ描かれざる女』小鳥遊書房、2022年、総頁数288頁。

「人」として注目されることはあっても「作家」としての再読が進んでいるとはいいがたいアナイス・ニンを、21世紀の視点で評価し直す、本邦初のモノグラフである。ニンがもっとも実験的・先鋭的であった30年代の作品を中心に論じる。

[雑誌論文](計1件)

[学会発表](計2件)

[図書](計4件)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 矢口裕子	4. 巻 5
2. 論文標題 お友だちはダイナマイト 『アナイス・ニンの日記』とセクシュアリティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 シモーヌ	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐竹由帆、三宅あつ子、矢口裕子、山本豊子
2. 発表標題 シンポジウム：Trapeze（アナイス・ニン無削除版日記第6巻）を読む
3. 学会等名 アナイス・ニン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢口裕子
2. 発表標題 反『ヘンリー&ジューン』小説としての「ジューナ」 『人工の冬』パリ版から
3. 学会等名 日本ヘンリー・ミラー協会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 ウェンディ・M・デュボウ編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鳥影社	5. 総ページ数 222
3. 書名 『アナイス・ニンとの対話』	

1. 著者名 Yuko Yaguchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 rose des vents-suisseisha/rose des vents-suisseisha	5. 総ページ数 143
3. 書名 Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition;	

1. 著者名 Yuko Yaguchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ebooklt.com	5. 総ページ数 235
3. 書名 Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition	

1. 著者名 矢口裕子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 アナイス・ニン いまだ描かれざる女	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------